

第11回（平成29年度）栃木県元気な農業コンクール経営活性化部門 受賞者の経営概要

◎ とちぎ元気大賞（農林水産大臣賞・栃木県知事賞）

◆ 齋藤 利治 氏（塩谷町・園芸）

1 受賞のポイント

消費動向やニーズを見据えた、スプレーマムの計画的な作付体系のもとに、ハウスの利用率を向上させるとともに、無人防除機や選花機を導入し、労力及びコスト削減に努め、非常に効率的で生産性の高い経営を行っている。また、病害虫の薬剤抵抗性・耐性の発達を抑制するために、IPM実践産地支援事業に取り組み、環境保全型農業を実践しているほか、生産部会長として、産地の技術の向上や生産振興に大きく貢献している点が高く評価された。



2 経営の特色

(1) 経営の発展経過と現況

農業大学校卒業後、市場での5年間の研修を経て、平成7年に就農した。その後、鉄骨ハウスの増設や蒸気消毒機等の導入により施設整備を進め、平成18年には水稻を全面委託し、スプレーマムの専作経営となった。それにより、周年安定生産を行いつつ、需要期に多めに出荷できるような計画出荷が可能となり、経営の安定化に大きく貢献している。

(2) 生産技術について

施設を最大限に活用するため、ほ場を10区画に分割した効率的な周年栽培体系を確立している。蒸気消毒機や無人防除機、選花機等の機械を導入し、省力化を図るとともに、ニーズや時期に応じた品種選定や栽培を実践している。また、IPM技術の導入により薬剤抵抗性・耐性の発達を抑制するとともに、栽培管理の省力化・低コスト化を目指している。



(3) 労働と生活について

年間を通して安定的な労力確保のために、技能実習生を受け入れている。また、休憩所やハウスへのトイレの設置、選花場へのエアコン設置など作業環境の整備を進めている。労務管理についても年間作業計画をもとに効率的に作業が出来るように、適期作業の敢行や人員配置の工夫を行い、繁忙期でも長時間労働にならないように心がけている。

(4) 販売の工夫について

生産部会開催の販売対策会議や市場視察等で市場や実需者の意見や動向を把握し、それに対応した生産、販売を心がけている。加えて、研究会主催の定期的な目揃会による出荷物の均一化や、市場への迅速な出荷情報の提供を行い、有利販売につなげている。また、市場との予約相対取引や注文販売にも力を入れ、年間を通した価格の安定化を図っている。

◎ とちぎ元気大賞（農林水産大臣賞・栃木県知事賞）

◆ 江崎 哲治 氏（大田原市・園芸）

1 受賞のポイント

梨において県内有数の大規模経営であり、高い技術を基盤とした栽培を実践し、高い単収と所得を実現している。また、非破壊糖度センサーの導入やとちぎの特別栽培農産物（リンク・ティ）認証により差別化を行い、独自の販売ルートを確立している。生産部会では、支部長や指導部員として活躍し、地域における梨の栽培振興や、技術の高位平準化に大きく貢献していることが高く評価された。



2 経営の特色

(1) 経営の発展経過と現況

平成10年に就農し、県が開発した品種「にっこり」の大果と品質の高さに魅力を感じ、品種の更新を進めていった。また、平成14年頃から、さらなる経営発展を目指し、非破壊糖度センサーの導入やリンク・ティの認証取得といった高付加価値化に向けた取組を始め、独自の販売ルート開拓を進めた。現在では、消費者のニーズに応じた、高品質で安全・安心な梨の生産・販売体制を確立している。

(2) 生産技術について

栽培の基本管理を厳格に励行するとともに、ポイントとなる時期には雇用を活用し、労働力を集中して短期間で完了できるよう作業スピードを重要視している。大規模な栽培面積においても、せん定、摘果、収穫、病害虫防除といった管理作業を、適期に効率的かつ集中的に行うことで、高品質な果実を安定的に生産することを可能としている。また、栽培樹の老木化が進行する中で早期から計画的な改植に取り組み、極端な減収を抑え安定的な果実生産を図っている。

(3) 労働と生活について

管理作業中の休憩をきちんと取れるように休憩所を設置しているほか、敷地内に数多くの花木を植栽して四季の移ろいを楽しむなど、心身ともにゆとり・リラックスできる環境を整備し、家族及び雇用者の作業環境を整えている。

(4) 販売の工夫について

非破壊糖度センサーを活用した糖度認証商品を提案した結果、市場からの注目及び引き合いが強まり、大手百貨店への販売ルートが確立している。リンク・ティ認証ほ場で生産した「減化学肥料・減農薬栽培のにっこり」は、個人への直接販売及び大手百貨店へ限定して販売し、他の生産物との明確な差別化を図っている。また、「にっこり」は加工にも適していることから、自宅に整備した加工所で、ジャムやパイ、焼肉のたれに加工して販売を行っている。



◎ とちぎ元気大賞（農林水産大臣賞・栃木県知事賞）

◆ 株式会社 JB.YASHIKI（鹿沼市・畜産）

1 受賞のポイント

スケールメリットを生かした肉牛の繁殖経営を行っており、フリーバーン牛舎における効率的な雌牛の群飼方式を導入しながらも、超早期母子分離技術によるきめ細やかな子牛の飼養管理により、効率的かつ安定的に質の高い子牛を肥育農家に提供している。また、地域の農地を借用し、大規模な飼料作物の生産による耕作放棄地対策への寄与や、排泄物の堆肥を飼料作物や地域の農家へ還元する、環境保全型農業の取組が高く評価された。



2 経営の特色

(1) 経営の発展経過と現況

経営主は、大学を卒業し、県外の大規模和牛繁殖農家で研修した後、平成 18 年に就農した。その後、平成 29 年には繁殖雌牛 110 頭にまで規模を拡大し、同年 3 月に株式会社 JB.YASHIKI を設立。それと同時に、代表取締役役に就任した。「肥育にとって最良な子牛」の生産を目標として、濃厚飼料給与量を抑え粗飼料を十分に食べさせる育成法を実践し、多くの肥育農家から高い評価と信頼を得ている。

(2) 生産技術について

フリーバーン牛舎において群飼方式による飼養を行い、牛床清掃・堆肥運搬作業の省力化や発情管理の高度化を図っているほか、超早期母子分離飼養方式を実践し、群飼環境下における子牛の事故発生防止と良好な発育、及び繁殖雌牛の発情成績の向上に努めている。また、自給飼料生産は、地域農家からの借地等を進め、年々作付面積を拡大し、繁殖雌牛への粗飼料自給率は 100% を達成している。



(3) 労働と生活について

毎日作業日誌をつけることで、過去の記録を参考にしながら、効率的に作業を進めることができている。牛個体の繁殖管理計画や出荷計画については、明確に記録しており、常に確認しながら飼養管理作業の円滑化を図っている。また、家族の話し合いと役割分担を大切に、ゆとりある経営に努めている。

(4) 販売の工夫について

肥育農家に評価される子牛を生産するため、定期的に肥育農家と情報交換を行い、飼養管理技術の向上、素牛導入や保留牛の選定、肥育農家との信頼関係の醸成に努めている。これにより、市場での信頼性を高め、子牛価格の高位安定化につながっている。

○ とちぎ元気賞（知事賞）

◆ 手塚 正一 氏・京子 氏（日光市・土地利用型）

1 受賞のポイント

水稲、大豆、麦を中心とした大規模経営を行っており、水稲の密苗移植栽培技術や大豆の準狭畦栽培技術といった省力化技術を積極的に導入し、徹底した作業の効率化を図っている。特に大豆については、4年に1作のブロックローテーションに取り組み、さらに湿害対策としてプラウ耕を行うことで、収量の安定化に努めるなど、高い収益性を実現している。また、水田の一部を開放し、地域の保育園児に田植えと稲刈り体験を実施して、農業や食への理解促進に努めている点も高く評価された。



2 経営の特色

(1) 経営の発展経過と現況

昭和63年に勤めていた会社を退職し、就農した。当時は水稲の受託を中心に、4ha程度の規模であったが、その後、農業機械や省力・低コスト技術の導入とともに、大豆やそば等の栽培にも取り組み、徐々に規模拡大を図っていった。将来的には、土地利用型農業を行いつつ、より収益確保が望める園芸品目の導入も視野に入れるとともに、各種研修会等にも参加し経営の発展を目指している。

(2) 生産技術について

大豆については、準狭畦栽培導入と播種時の除草剤散布によって、作業の効率化と雑草対策を図っているほか、中耕・培土作業の省力化や収穫を効率的に行っている。4年1作のブロックローテーションやプラウ耕による排水対策の実施も、収量の安定化や高品質化に寄与している。また、水稲についても、高密度播種密移植技術を導入することにより、大幅に苗を削減することができ、省力的で低コストな土地利用型農業の実践を可能としている。

(3) 労働と生活について

乾燥調製施設については、作業性を考慮した配置を行い効率化に努めている。現在は、生産物を紙袋で出荷しているが、調製作業の労力軽減の観点からフレコン出荷についても検討を進めている。また、ゆとりある生活のため、基本的に定休を設けて作業スケジュールを組み、家族のリフレッシュにも努めている。

(4) 販売の工夫について

高品質化により、販売単価を高めているほか、米については、複数の販売先を確保し、経営の安定化を図っている。

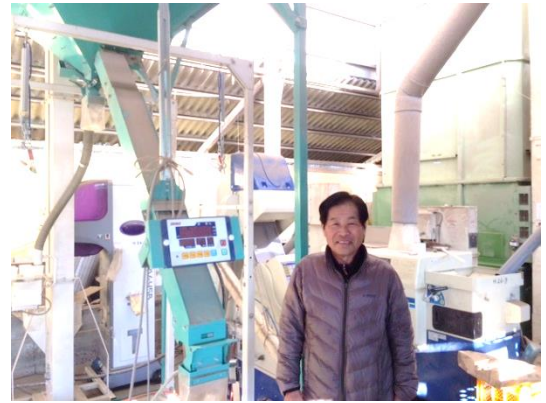


○ とちぎ元気賞（知事賞）

◆ 森林 孝一 氏・早知子 氏（那須烏山市・土地利用型）

1 受賞のポイント

水稲、麦、そばを中心とした経営を行っており、水稲においては、プール育苗や側条施肥田植機の利用により、作業の効率化及び収量・品質の安定化を図っている。また、地域の未作付地や耕作放棄地を積極的に借り受け、陸稲やビール麦、そばの作付を進めるとともに、農地の原状復帰のため、除草や灌木の伐採、土づくりに取り組み、地域の水田環境維持に大きく貢献している点が高く評価された。



2 経営の特色

(1) 経営の発展経過と現況

昭和 47 年に勤めていた会社を退職し、就農した。当時は、水稲と麦類を合わせて 7 ha 程度の規模であったが、その後、近隣の未作付地や耕作放棄地を集積し、既存作物やそば等の新たな作物の栽培と作業受託により、経営規模を徐々に拡大させた。ほ場条件は狭小地や傾斜地が多いため、機械化だけでは大規模化が図りにくい状況にあるが、雇用のさらなる活用も視野に入れながら、経営拡大を進めていきたいと考えている。

(2) 生産技術について

水稲については、プール育苗や側条施肥田植機による移植を行っている。それにより、育苗及び施肥の省力化や肥料費の削減、代かき後の濁水による肥料成分の河川流出等の抑制を図っている。また、病虫害防除用の乗用管理機や遠赤外線式乾燥機の導入により、管理作業や調製作業の効率化を徹底している。

(3) 労働と生活について

ほ場条件に合わせた農業機械と常時雇用の導入により、労力の軽減や作業効率の向上を図り、労働時間にゆとりができるようにしている。農作業の繁閑によって変動することはあるが、1日の労働時間は8時間、土日は休むことを基本としている。また、年に一度は従業員も含めた旅行を企画し、福利厚生の実現を図っている。



(4) 販売の工夫について

平成 26 年の米価下落の影響を受け、米を自ら販売していかなければならないという思いが強くなり、直接販売の取引先を自ら開拓した。そのことにより、不作等によるリスク分散のため、複数の品種を栽培するようにしている。また、陸稲については、ソフトクリームのコーンの加工原料として業者に契約販売を行っている。

○ とちぎ元気賞（知事賞）

◆ 津野田 勝弘 氏・貴美子 氏（上三川町・園芸）

1 受賞のポイント

県内でも有数の大規模なにら専作経営である。加えて県で開発された新品種や新技術をいち早く導入し、自身の経営改善に役立てるだけでなく、地域のモデル的な経営体として、産地の活性化にも大きく貢献している。また、販売面では、出荷形態の簡易な契約取引を導入することで、安定した収益を得るとともに、労力を削減することができるため、ゆとりのある経営を実現しており、新しい経営モデルとなる点が高く評価された。



2 経営の特色

(1) 経営の発展経過と現況

大学を卒業し、民間企業に勤務した後、平成8年に就農した。当初は水稲、にら、露地野菜の複合経営だったが、経営移譲を受けたことをきっかけに露地野菜をやめ、その農地を収益性の高いにらに転換した。平成19年には水稲全面積を地域の担い手に借地として託し、現在は150aの大規模なにら専作経営として周年で栽培を行っている。単収向上による集約的な経営実現のため、栽培検討会やセミナーで技術の研鑽に励み、新品種や新たな栽培技術の確立に積極的に取り組んでいる。

(2) 生産技術について

平成26年より、ウォーターカーテンと点滴チューブによるかん水設備の導入している。これにより、収量の増加、品質の安定化、作業性の向上、労力の削減などの効果が得られ、経営の改善に大きく貢献している。また、県で開発した新品種「ゆめみどり」や新技術「1年1作連続収穫栽培」を地域の仲間とともにいち早く導入し、生産性を向上させたほか、新たな取組を実践することで産地の活性化にも寄与している。

(3) 労働と生活について

簡易な出荷形態による契約取引や作業動線の改善に取り組むことで、省力的で効率的な出荷調製体制を確立している。また、定期的な休日の設定やパートナーとの協力体制の構築により、ゆとりのある経営を実現している。

(4) 販売の工夫について

契約取引を行うことで、販売金額や収入の見通しが立ち、経営の長期的な計画を立てることができる。経営の安定という利点がある反面、契約した数量を周年で出荷しなければならない責任も付いてくるが、厳寒期にも安定的ににらを収穫することのできるウォーターカーテンを活用した栽培技術によってカバーしている。



○ とちぎ元気賞（知事賞）

◆ 小針 結城氏・博子氏（那須塩原市・畜産）

1 受賞のポイント

乳質向上に重点をおいた酪農経営を行っており、個体乳量を無理に増やすのではなく、体細胞数をいかに抑えるかに力を入れた飼養管理を実践し、高い収益性を実現している。また、和牛受精卵を活用した和牛子牛生産の取組による経営の安定化や、牛を健康に飼養するための技術や牛舎環境の整備、雇用や家族シフトの導入によるゆとりのある労働環境が高く評価された。



2 経営の特色

(1) 経営の発展経過と現況

平成13年に大学を卒業後、就農した。国内初のBSE発生で子牛価格が暴落した際、乳牛に和牛繁殖農家の受精卵を移植して生まれた和牛子牛の販売が貴重な収入源となった経験から、平成15年より酪農と和牛繁殖の複合経営を開始した。その後は、牛舎の環境改善や良質の堆肥生産のための施設や設備を整備し、規模拡大を進めてきた。現在は、「牛を健康に飼う」、「乳質第一」、「酪農にも定休日を」の経営理念のもと、さらなる経営の発展に向けて技術の研鑽や知識の習得に努めている。

(2) 生産技術について

乳牛の管理については、搾乳手順の遵守やカウコンフォートを意識した牛舎環境の改善、外部酪農指導者による巡回指導や牛群検定成績の活用、良質な自給飼料の給与等のきめ細やかな取組により、衛生的で高品質な生乳生産を実現している。また、繁殖管理については、家畜人工授精師の資格を持つ経営主が自ら、1頭1頭の行動を常に観察し、繁殖台帳での発情回帰の把握や牛舎内に設置した監視カメラを活用することで、発情や分娩兆候を逃すことなく授精することが可能となっている。

(3) 労働と生活について

牛舎内のこまめな清掃を心がけているほか、農場敷地内も季節ごとの花を植栽するなど常に牛舎環境の美化に努め、農協主催の環境整備美化コンクールでは毎年優秀賞を獲得している。また、平成23年から常時雇用を導入したことで、家族が交代で休日を取得できるシフトを組むことが可能となり、ゆとりのある経営を実現している。

(4) 販売の工夫について

青木農業祭等の地域イベントへの積極的な参加や、近隣小学校の農業視察の受け入れも毎年行っており、酪農への理解促進や牛乳の消費拡大に向けた取組を行っている。



○ とちぎ元気賞（知事賞）

◆ 黒子 忠芳 氏・典子 氏（真岡市・複合）

1 受賞のポイント

観光いちごと水稲栽培に水稲育苗の受託を取り入れた複合経営により、安定した高い収益性を実践している。観光いちごにおける顧客目線でのほ場管理やIPM技術の実践など、安全安心に関わる取組や、水稲育苗受託による、地域の水稲・いちご複合経営農家への貢献が高く評価された。また、女性中心の雇用や妻による労務管理、母の水稲育苗管理といった、女性の活躍にも特出した取組が見られた。



2 経営の特色

(1) 経営の発展経過と現況

大学を卒業し、民間企業に就職後、平成13年に兼業農家となった。平成17年に「真岡地区育苗管理組合」の業務を父が継承し、水稲300aに加え、約2万枚の水稲育苗受託を開始。平成19年には観光いちご園を始め、それを契機に専業農家となった。その後、徐々に規模拡大を図り、現在は「顧客の立場に立った商品づくり」を経営理念に掲げ、さらなる経営の改善や技術の向上に努めている。

(2) 生産技術について

観光いちごについては、複数作型による収穫盛期分散により、栽培期間を通して収穫量を平準化し、常に来園者を収穫適期のハウスに案内できる体制を整えている。炭酸ガス施用、自動換気システムの導入などにより、品質や収量の向上や省力化にも取り組んでいる。

水稲育苗については、育苗ハウスの集積や自動かん水施設、苗箱並べ機等の導入により、積極的に作業の軽労化と省力化を進めるとともに、育苗ハウスや育苗箱の色を品種ごとに分けるなど、徹底した異品種混入防止のためのリスク管理を行っている。

(3) 労働と生活について

作業が重なる繁忙期には雇用労働力を確保するとともに、相互の協力・連携を図り、無理のない労務管理に努めている。また、妻が中心となって作業前後のミーティングを実施する等して、女性従業員との連携や情報交換を図ることで、作業性の向上に役立っている。

(4) 販売の工夫について

開園当時は思ったような集客ができなかったが、地元の神社で試食やPR活動を実施した結果、観光客が徐々に増加し、リピーターの確保にもつながった。また、4戸の観光いちご園が共同で直売所のイベントや市・農協の広報誌などを活用して広くPRしているほか、観光いちご園の開園前には県外に出向き販促活動を行っている。

